

今週の為替相場見通し(2025年5月12日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		141.97 ~ 146.18	145.35	143.00 ~ 148.00
ユーロ	(ドル)		1.1197 ~ 1.1425	1.1248	1.1000 ~ 1.1400
(1ユーロ=)	(円)		161.59 ~ 164.57	163.48	161.00 ~ 166.00
英ポンド	(ドル)		1.3213 ~ 1.3445	1.3320	1.2950 ~ 1.3450
(1英ポンド=)	(円)	*	190.00 ~ 193.75	193.37	185.00 ~ 195.00
豪ドル	(ドル)		0.6357 ~ 0.6515	0.6412	0.6250 ~ 0.6550
(1豪ドル=)	(円)	*	90.59 ~ 93.59	93.21	92.00 ~ 97.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

国際為替部 為替デリバティブチーム 部坂 洋太郎

(1)今週の予想レンジ: 143.00 ~ 148.00 円

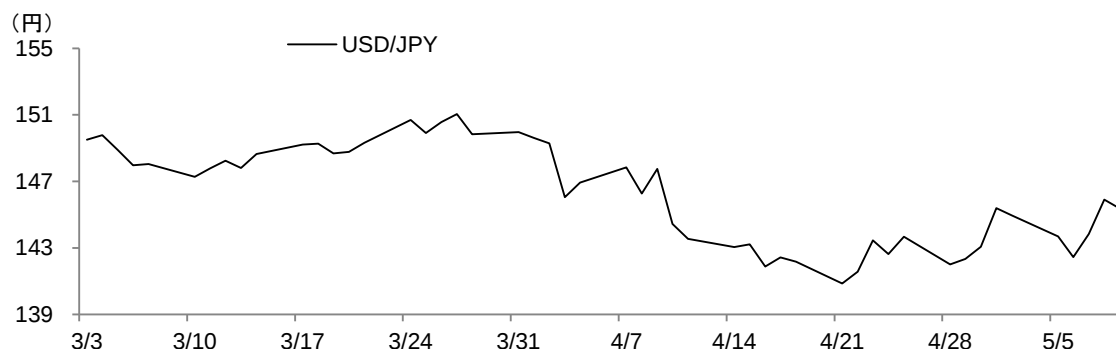
(2)ポイント【先々週・先週の回顧と今週の見通し】

4月28日週のドル/円は上昇となった。週初28日、143.84円でオープンした後、米金利低下を背景に下落となり142.03円でクローズ。29日は日本祝日の中、米国時間に発表された米3月JOLT求人件数が弱い結果となったことを受けて141.97円まで一時下落となった。30日、米国時間に発表された米1~3月期GDPを受けてドル売りの展開となるも、その後は143円台まで値を戻してクローズ。5月1日、日銀金融政策決定会合にて物価見通しの引き下げや追加利上げに慎重な考えが示されたことを受けて上昇。米国時間には米4月ISM製造業景気指数が予想を上回る結果となると一時は145.73円まで上昇してクローズ。2日、米国時間に発表された米4月雇用統計は強弱まちまちの内容で、発表直後は143.73円まで下落するも引けにかけて買い戻され144.95円で越週。5月5日の週のドル/円は週前半に下落したのち下落幅を取り戻す展開となった。5日は東京・ロンドンが休日で流動性の薄い中、143円台後半まで下落。6日、米3月貿易収支が赤字となったことを受けて142.36円まで下落。7日、FOMC後のパウエルFRB議長会見のタカ派発言を受けてドル/円は一時144.00円まで上昇。8日、米英貿易協定合意の報道により市場心理が改善する中でドル/円は146.17円まで上昇。9日はアジア時間からドルが売られる展開で145.35円にて越週となった。

今週のドル/円はドル高の展開を予想する。週末に米中貿易協議の進展やロシア・ウクライナ間の協議進展に関するヘッドラインにより不確実性は解消されてきており上昇しやすい地合いと考える。また、IMMの投機筋のポジションについてもドル/円のポジションはショートに傾いており、ショートポジションの巻き戻しも入りやすい地合いと言える。日米の金融政策についても、日銀が利上げに慎重な見方を示した一方で、FEDは物価上昇の再燃を懸念しており追加利下げには消極的である状況を踏まえると、日米金利差が縮小する見込みは後退している。引き続き、貿易協議や地政学ヘッドラインに振られる展開は継続となるが、ドル/円は上昇圧力がかかりやすい状況と考える。今週発表予定の経済指標は、13日(火)に米4月CPI、15日(木)に米4月PPIおよび米4月小売売上高となっている。

(3)先々週・先週までの相場の推移

先々週・先週(4/28~5/9)の値動き: 安値 141.97 円 高値 146.18 円 終値 145.35 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

国際為替部 為替営業第二チーム 鈴木 智大

(1) 今週の予想レンジ: 1.1000 ~ 1.1400 161.00 ~ 166.00 円

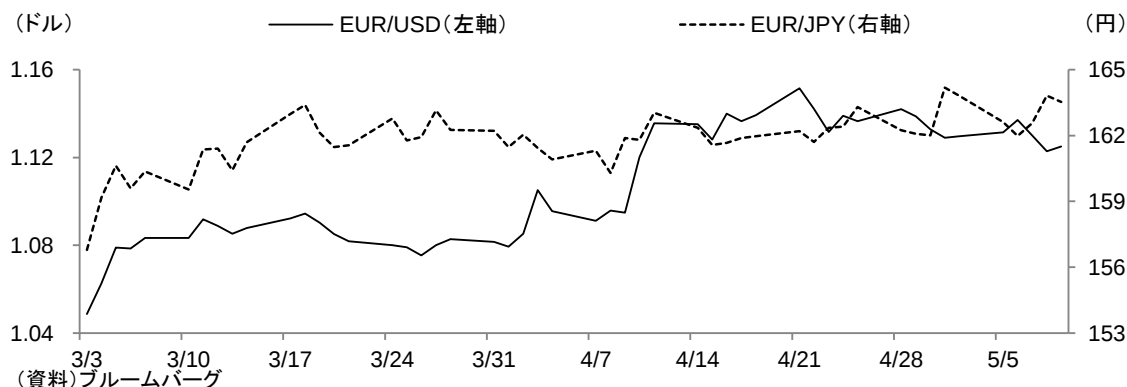
(2) ポイント【先々週・先週の回顧と今週の見通し】

4月28日週のユーロ/ドルは1.1346でオープン。米金利の低下を受けたドル売りの流れに淡々と上昇を続け、週間高値となる1.1425をつけるも、その後は米経済指標の軟調な結果を受けたドル売り地合いや30日の独4月CPIの予想を上回る結果を以てしても、1.14台を前に上値の重い値動き。その後はじり安の展開となる中、米中関税協議に向けたポジティブな報道を受けたドル買い地合いに、一時週間安値となる1.1266まで下落。5月2日は米4月雇用統計の発表後に1.13台後半まで上昇するも、一服後は米金利の上昇を受けたドル買いに押され反落し、1.1300で越週した。5月5日週のユーロ/ドルは、1.1321でオープン。東京、ロンドンともに休日となる中、1.13台前半を中心にしばらくは方向感が出ず。6日は2回目の独首相投票でメルツ氏が当選したことで政治不安が後退し、1.13台後半まで上昇したものの、7日のパウエルFRB議長の利下げに慎重な姿勢を示した発言を受けたドル買いの流れに、1.13ちょうど近辺まで反落。8日は米英の貿易協定合意、米中協議へのトランプ米大統領の発言を受けたドル買いが更に強まり、1.12台前半まで値を下げる。9日は特段材料のない中で、1.12台半ばを中心とした推移に落ち着き、1.1248で越週した。

今週のユーロ相場は軟調な推移になることを予想する。米政権による関税政策について、依然として不確実性は高いものの、英国との貿易協定合意や中国との協議に関してトランプ米大統領が「良い協議ができた」と発言するなど、要所で前向きな材料がでてきており、米国の深刻な景気後退を懸念した過度な米国売りは一服している状況。一方、欧州委員会が関税交渉が決裂した場合の報復関税の具体的な内容を示した上、WTOへの提訴の可能性をほのめかすなど、他国と比較して米欧の交渉の進展には遅れが目立つ印象だ。米国売りの勢いが和らぐ中で、ユーロ相場を押し上げてきたドル売りの受け皿としての立場も揺らぎつつあり、特別にユーロが選好される相場にはなりづらいついて考えている。また、域内の経済状況にも注意を払いたい。ドイツ経済の根幹をなす自動車産業をはじめ、適用が開始されている米関税政策の影響が現段階では不可避な中、景気の見通しは依然不透明感が強い。13日(火)にはユーロ圏とドイツのZEW景気期待指数の発表が予定されているが、茲許の経済指標には軟調な内容が目立つ上、景況感を好転されるような報道も見えておらず、内容が弱かった際に、ユーロ売りが更に強まる展開を警戒しておきたいところ。

(3) 先々週・先週までの相場の推移

先々週・先週(4/28~5/9)の値動き: (対ドル) 安値 1.1197 高値 1.1425 終値 1.1248
(対円) 安値 161.59 高値 164.57 終値 163.48



3. 英ポンド

欧州資金部 天沼 幹

(1) 今週の予想レンジ: 1.2950 ~ 1.3450 185.00 ~ 195.00 円

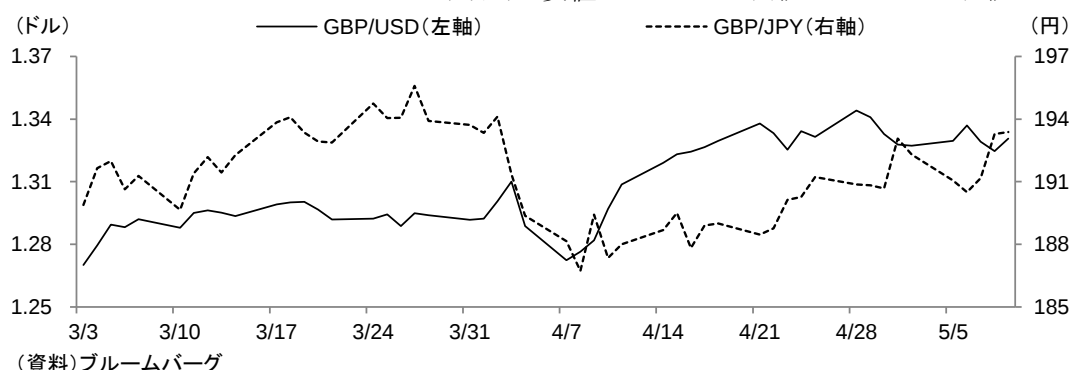
(2) ポイント【先々週・先週の回顧と今週の見通し】

過去2週間の英ポンド相場は高値圏で上値重くレンジ推移した。4月28日は米関税によりトレンド化したドル資産売りを受けてドル安で欧州通貨が上昇し、英ポンドもユーロに追随する形で底堅く推移した。翌日からは上値重くなり、特段買いが続く材料も出ずじわじわと調整し、結局週初と同水準で翌週に渡った。休場の5月5日を経て6日、メルツ氏が独議会1回目の首相指名投票で過半数に届かなかったことが嫌気されたか、独株売りと共にユーロ売りとなった。英ポンドは全体的にドルが弱含む中、対ユーロでの買い圧を受けて上昇。7日はFOMCにて利下げ急がない姿勢が示されたことでドル高となり、前日の上昇分を打ち消す形で下落した。8日はBOEにて市場予想通り▲25bpの利下げが発表されるも、票割れと利下げペースに関するレトリックがタカ派的で6月の利下げ織り込みが後退し英ポンド高で反応した。その後、対英関税について進展が見られ、自動車関税が25%から10%に減らされた。市場としては未だ不透明性が高いことから英ポンド高は続かず、結局レンジ内での推移となった。

今週の英ポンドは高値圏にて上値重く、関税報道に左右されながらもじわじわと英ポンド安で推移するように思う。先週、対英関税について進展が見られたものの、当初報道されていたような包括的な合意ではなかった。例えば、鉄鋼や医薬品など他セクターや非関税障壁については今後交渉がなされていく。さらにそのタイムフレームについても不透明なため、市場の反応としては明確な英ポンド買いにはなっていない。先週に続けて何らかの進展が見込まれれば一層の英ポンド高に傾くだろうが、各国の関税交渉に時間がかかっている現状を見るに長期化する可能性が高く、高値圏のレンジ推移を数週間続けているだけにずるずるとレンジを割り込んで切り下げていくように思う。対中などアジア方面への関税も進展を見せており、先週株式市場が反発を見せたように米資産回避の巻き戻しで全般的なドル買いとなって英ポンドが売られる展開も十分考えられる。経済指標としては、13日(火)に英3月雇用統計と米4月CPIが予定されている。

(3) 先々週・先週末までの相場の推移

先々週・先週(4/28~5/9)の値動き: (対ドル) 安値 1.3213 高値 1.3445 終値 1.3320
(対円) 安値 190.00 高値 193.75 終値 193.37



4. 豪ドル

国際為替部 為替営業第一チーム 山田 隆広

(1) 今週の予想レンジ: 0.6250 ~ 0.6550 92.00 ~ 97.00 円

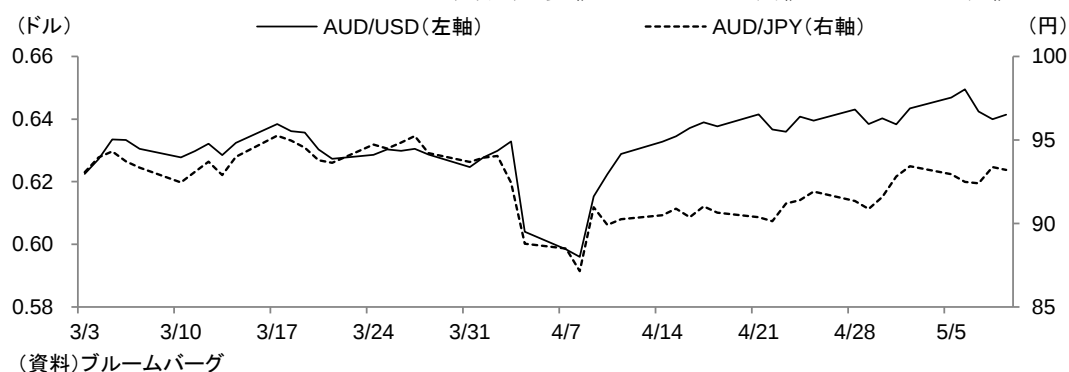
(2) ポイント【先々週・先週の回顧と今週の見通し】

4月28日週の豪ドルは0.64近辺で方向感なく推移。週初28日、豪ドルは0.6382で東京時間オープン、29日にかけて米金利低下やトランプ米大統領が自動車関税に対する負担軽減措置を言及したことで、0.64近辺でもみ合い。30日、豪1～3月期CPIの市場予想比上振れによりRBAの利下げペース減速が意識され一時0.64台半ばまで上昇。その後、市場予想以上に悪化した米1～3月期GDPの結果などを受けて一時週安値となる0.6357まで下落する場面も見られたが、米国が中国に対して関税協議を打診しているとの報道などからリスクセンチメントが改善すると、0.64台まで買い戻された。5月1日から2日にかけては好決算を発表した米大手テック企業が米株式市場を牽引しドル買い優勢となるなかで、中国が対米貿易交渉の可能性を検討中との発表から人民元が対ドルで急伸。豪ドルも連れられて一時週高値0.6470まで反発後0.6448にて越週。5月5日週の豪ドルは米中関税交渉のヘッドラインに振られる展開。週初5日、アジア時間は0.6445でオープン。東京市場休場のなか豪総選挙の影響は限定的となるも、米国が台湾ドル高を要求する可能性との憶測から台湾ドルが対ドルで急騰するなか、豪ドルは0.64台後半まで上昇。6日から7日にかけて、トランプ米大統領の関税協議に対する強硬姿勢などから先行き不透明感が改めて意識され豪ドルは一時週高値の0.6515まで上値を伸ばしたが、その後は週内に米中閣僚級協議実施との発表などを受け軟調に推移。米国時間のFOMCでは利下げ見送りが決定、パウエルFRB議長のタカ派な会見なども重なり豪ドルは0.64台前半まで反落。8日から9日にかけては米英貿易協定合意との報道に、豪ドルは週安値の0.6371まで急落するも、売り一服感などから0.6412まで買い戻されて越週。

今週の豪ドルはレンジ内での推移を予想。来週5月20日のRBA会合を控え明確な方向感はいくとい考えられるが、米中貿易交渉の進展次第で上下に振られる可能性は考慮に入れておきたい。4月RBA会合では2会合ぶりに政策金利据え置きが決定、ブロックRBA総裁は会見にて次回会合での利下げ再開に含みを持たせずデータ次第との様子見姿勢を示したもとの、豪1～3月期CPIのトリム平均値は前年比+2.9%とRBAの目標レンジ内に回帰。15日(木)に発表予定の豪4月雇用統計では失業率4.1%、雇用者変化が20千人の増加が予想され、景気過熱に陰りが見えている状況。一方で、トランプ関税を巡る不確実性の高まりから既に5月RBA会合における追加利下げが完全に織り込まれており、当該指標の影響は限定的と思われるが、強含んだ際には将来的な利下げペースの減速が意識され豪ドル買いが進むと思われる。もっとも、週末に行われた米中閣僚級協議では「大きな進展があった」とされ、12日(火)の詳細発表次第ではあるが先行き不透明感の後退からドル高地合いとなりやすく豪ドルの上値は抑えられる一方で、人民元にも相応の買い材料となるなかで下値も限定的となると考える。

(3) 先々週・先週までの相場の推移

先々週・先週(4/28～5/9)の値動き: (対ドル) 安値 0.6357 高値 0.6515 終値 0.6412
(対円) 安値 90.59 高値 93.59 終値 93.21



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。